

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2016 年 9 月 29 日(29.09.2016)



(10) 国際公開番号
WO 2016/152825 A1

- (51) 国際特許分類:
A61M 15/00 (2006.01) *A61M 21/02* (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2016/058897
- (22) 国際出願日: 2016 年 3 月 22 日(22.03.2016)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2015-061176 2015 年 3 月 24 日(24.03.2015) JP
- (71) 出願人: ロート製薬株式会社(ROHTO PHARMACEUTICAL CO., LTD.) [JP/JP]; 〒5448666 大阪府大阪市生野区巽西 1 丁目 8 番 1 号 Osaka (JP).
- (72) 発明者: 服部 亮(HATTORI, Makoto); 〒5448666 大阪府大阪市生野区巽西 1 丁目 8 番 1 号 ロート製薬株式会社内 Osaka (JP).
- (74) 代理人: 藤本 昇(FUJIMOTO, Noboru); 〒5420081 大阪府大阪市中央区南船場 1 丁目 1 5 番 1 4 号 堺筋稲畑ビル 2 階 Osaka (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA,

BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JP, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

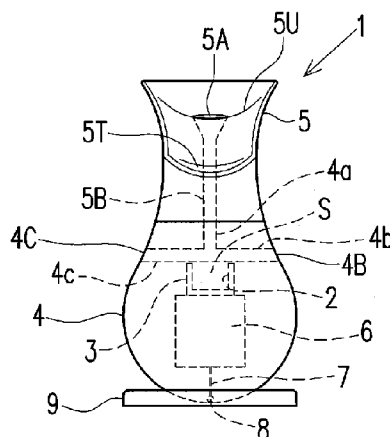
添付公開書類:

- 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

(54) Title: SUCTION INSTRUMENT

(54) 発明の名称: 吸引器具

[図1A]



(57) Abstract: The present invention is provided with a body 4 configured having a rounded shape and a size which enables holding in one hand, an accommodating part 2 arranged in the body 4 and capable of accommodating a scent component S, a heating part 3 for heating the accommodating part 2, and a mouthpiece part 5 for inhalation of the scent component S.

(57) 要約: 片手で保持可能なサイズに構成され、かつ、丸みを帯びた形状に構成された本体 4 と、本体 4 内に配置され香成分 S を収容可能な収容部 2 及び収容部 2 を加熱する加熱部 3 と、香成分 S を吸うための吸い口部 5 とを備えている。

WO 2016/152825 A1

明 細 書

発明の名称：吸引器具

関連出願の相互参照

[0001] 本願は、日本国特願 2015-061176 の優先権を主張し、引用によって本願明細書の記載に組み込まれる。

技術分野

[0002] 本発明は、呼吸時に香りを一緒に吸い込むことができる吸引器具に関する。

背景技術

[0003] 近年、大きく深い呼吸を行うことが健康促進につながると考えられている。その呼吸時に、香りを一緒に吸い込むことによって、脳に刺激を与えてリラクゼーション効果を同時に得ることができる。そこで、呼吸を行いつつ、リラクゼーションを高めることができる装置が提案されている。この装置は、鼻及び口を覆った状態で呼吸が可能なマスク部と、マスク部に接続された呼吸用筒体と、呼吸用筒体の軸方向一端に接続される吸息筒部と、呼吸用筒体の軸方向他端に接続される呼息筒部と、呼吸用筒体に電氣的に接続される制御ボックスとを備えている。また、呼吸用筒体内には、吸息時にのみ開いて吸気する吸気用弁体と、呼息時にのみ開いて呼気を排出する呼気用弁体と、吸気用弁体の開動作を検出する検出手段と、呼気用弁体を通過する吸気の流れに香りを噴霧する香り付与手段とを備えている。そして、制御ボックス内に備えている制御手段は、検出手段の検出信号に基づいて香り付与手段を動作させ吸息に同期して香りを吸気に付与する（例えば、特許文献 1 参照）。

先行技術文献

特許文献

[0004] 特許文献 1：日本国特開 2006-325756 号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0005] 上記特許文献1の装置は、多数の部品から構成されているだけでなく、弁体を制御する制御ボックスを備えなければならず、装置全体が大型になって、取り扱いが難しいだけでなく、コスト高になるという不都合があり、改善の余地があった。

[0006] そこで、本発明は、かかる事情に鑑みてなされたもので、取り扱いが容易でかつ安価に構成することができる吸引器具を提供することを課題とする。

課題を解決するための手段

[0007] 本発明に係る吸引器具は、片手で保持可能なサイズに構成され、かつ、丸みを帯びた形状に構成された本体と、該本体内に配置され香成分を収容可能な収容部と、前記本体内に配置され該収容部を加熱する加熱部と、前記香成分を吸うための吸い口部とを備えていることを特徴とする。

[0008] また、本発明に係る吸引器具においては、前記本体内に該本体の外部からの空気を取り込むための複数の吸気口が該本体に形成されていてもよい。

[0009] また、本発明に係る吸引器具においては、前記吸い口部は、少なくとも2種類あって、その一つは、口から吸い込み可能な第1吸い口部であり、他の一つは、鼻から吸い込み可能な第2吸い口部であり、前記第1吸い口部は、前記本体に対して着脱可能に構成されていてもよく、前記第2吸い口部は、前記本体に対して着脱可能に構成されていてもよい。

図面の簡単な説明

[0010] [図1A]本発明の第1実施形態に係る吸引器具の正面図である。

[図1B]本発明の第1実施形態に係る吸引器具の側面図である。

[図1C]本発明の第1実施形態に係る吸引器具の斜視図である。

[図2]第1実施形態に係る吸引器具を使用している使用状態を示す側面図である。

[図3A]本発明の第2実施形態に係る吸引器具の平面図である。

[図3B]本発明の第2実施形態に係る吸引器具の正面図である。

[図3C]本発明の第2実施形態に係る吸引器具の底面図である。

[図4]同第2実施形態の吸引器具の縦断面図である。

[図5]同第2実施形態の吸引器具の吸い口を他の形態の吸い口に付け替えた上端部の縦断面図である。

[図6]本発明の第3実施形態に係る吸引器具を示す正面図である。

発明を実施するための形態

[0011] <第1実施形態>

まず、本発明の第1実施形態に係る吸引器具を説明する。

[0012] 図1A、図1B、図1Cに示すように、吸引器具1は、香成分Sを収容可能な収容部2及び収容部2を加熱する加熱部3が内部に配置された本体4と、本体4内に収容された香成分Sを吸うための吸い口部5とを備えている。

[0013] 本体4は、縦長状で、かつ、片手で保持可能な太さのサイズに構成され、しかも丸みを帯びた略ランプ形状に構成されている。本体4の内部に、後述する吸い口部5の吸い口5Aに連通する縦方向（上下方向）の第1空気案内通路4aが形成されている。また、図1Aに示すように、本体4の外径が最も大きくなっている上下方向中央部よりも上部側に、本体4内に外気を取り入れるための2つの開口（吸気口）4B、4Cが、左右の中心線に対して左側と右側とに振り分けられて形成されている。ここでは、2つの開口（吸気口）4B、4Cが左右対称となる位置に形成されているが、他の位置に形成されていてもよい。また、それら開口4B、4Cと第1空気案内通路4aの下端部とを連通接続する2つの第2空気案内通路4b、4cが本体4内に形成されている。2つの第2空気案内通路4b、4cは、略水平方向に形成されている。また、本体4における第1空気案内通路4aの下方に、香成分Sを収容可能な収容部2と、収容部2に収容された香成分Sを加熱する加熱部3と、加熱部3を加熱するための充電型のバッテリー6とを備えている。このように、本体4の中心部に形成される第1空気案内通路4aの下方に、加熱部3と、バッテリー6とを上下方向で重複するように配置することによって、本体4が横方向（水平方向）に大型化することを抑制することができる。これにより、片手で持ち易くなる。尚、本体4を構成する材料としては、プラ

スチック（耐熱性プラスチックが好ましい）やセラミックの他、金属等が使用可能である。

[0014] 加熱部 3 は、上方が開放された箱型形状に構成され、例えばセラミックヒータ（カーボンヒータでもよい）からなり、バッテリー 6 により加熱される。この加熱により香成分 S が加熱されて香りを放出する。香成分 S としては、固形状、ゲル状、液体状のものが用いられ、公知の香成分を特に制限なく利用できる。例えば、精油、合成香料、動物性香料などを用いることができる。尚、加熱部 3 は、本体 4 に備えているスイッチ（図示せず）を操作することによって、加熱状態と非加熱状態とに切り替えられる。

[0015] 本体 4 の下端には、バッテリー 6 に電線 7 により接続された接点 8 を備えている。また、図 1 A、図 1 B に示す載置台 9 には、載置した本体 4 の接点 8 に接続可能な接点（図示せず）を備えるとともに、該接点（図示せず）に接続されパソコンに接続可能な U S B 端子（図示せず）を備えている。従って、U S B 端子をパソコンに接続しておけば、載置台 9 に本体 4 を載置することによって、U S B 端子を介してパソコンによりバッテリー 6 が自動的に充電されるように構成されている。

[0016] 吸い口部 5 は、本体 4 の上端に取り付けられ、図 1 A、図 1 B、図 1 C 及び図 2 に示すように、側面視において上側の左側が切欠かれた形状になっている。具体的には、奥行き方向手前側に突出する平面視略円弧状の段部 5 T を備え、この段部 5 T よりも上方でかつ手前側（図 1 B 及び図 2 では左側）とは反対側（図 1 B 及び図 2 では右側（奥側））に引っ込んだ凹部状の鼻受け用段部 5 U を備えている。この鼻受け用段部 5 U は、手前側とは反対側の奥側に突出する平面視略円弧状（図 1 C 参照）に形成されている。そして、この鼻受け用段部 5 U の手前側でかつ奥行き方向と直交する幅方向中央部に吸い口 5 A が形成されている。吸い口 5 A は、径が下方側ほど小さくなるテーパ状（図 1 A 参照）に構成され、そのテーパの下端と前記第 1 空気案内通路 4 a の上端とが、吸い口部 5 の中心に上下方向に形成されている縦向きの空気案内通路 5 B で連結されている。吸い口部 5 を構成する材料として

は、本体 4 と同様に、プラスチック（耐熱性プラスチックが好ましい）やセラミックの他、金属等が使用可能である。

[0017] このように構成された吸引器具 1 を使用する場合には、図 2 に示すように、例えば右手 R で吸引器具 1 を掴むとともに鼻を鼻受け用段部 5 U に当接する又は接近した状態にする。この状態から、図示していないスイッチを押すことによって加熱部 3 を駆動して香成分 S を加熱する。続いて、大きく深い呼吸を行うことによって、2 つの開口 4 B, 4 C から第 2 空気案内通路 4 b, 4 c を通して本体 4 内部に外気を取り入れ、香成分 S の香りを外気とともに第 1 空気案内通路 4 a 及び空気案内通路 5 B を通して上端の吸い口部 5 から鼻に吸い込む。これにより、健康促進を図りつつ、香り成分 S の香りを取り入れて脳を刺激することによるリラクゼーション効果を得ることができる。また、片手で保持可能なサイズに構成され、かつ、丸みを帯びた形状に構成された本体 4 は、手に馴染み易く片手で容易に保持することができるので、取り扱いが容易である。尚、2 つの開口 4 B, 4 C のうちのいずれか一方を指で塞ぐ、又は一方の開口 4 B 又は 4 C の一部を指で塞ぐ、あるいは両方の開口 4 B, 4 C の一部を塞ぐことによって、吸い込む外気の量を調整することができる。前記開口 4 B, 4 C が、本体 4 の最大径となる部分以外の部分に形成されているので、手が小さな方（例えば女性）でも、2 つの開口 4 B, 4 C を指で塞ぎ易くなっている。また、収容部 2 から香成分 S を吸い込むための第 1 空気案内通路 4 a に 2 つの第 2 空気案内通路 4 b, 4 c を合流させる構成にするとともに、2 つの開口 4 B, 4 C を吸い口部 5 よりも下方の本体 4 に形成することによって、本体 4 を持つ手の指で 2 つの開口 4 B, 4 C を一層塞ぎ易くなっている。

[0018] <第 2 実施形態>

次に、本発明の第 2 実施形態に係る吸引器具を図 3 A, 図 3 B, 図 3 C 及び図 4 に基づいて説明する。

[0019] 第 1 実施形態の吸引器具 1 は略ランプ形状のものであったが、第 2 実施形態の吸引器具 1 O は、第 1 実施形態の吸引器具 1 よりも直径が大きくかつ縦

方向の寸法及び横方向の寸法が略同一に設定された略リング形状に構成されている。

[0020] 吸引器具 10 は、前述同様に、香成分を収容可能な収容部 11 及び収容部 11 を加熱する加熱部 12 を有する本体 13 と、本体 13 内に収容された香成分 S を吸うための吸い口部 14 とを備えている。

[0021] 本体 13 は、片手で保持可能な太さのサイズに構成され、しかも丸みを帯びた略リング形状に構成されており、内部に、吸い口部 14 の吸い口 14 A に連通する空間部 13 K が形成されている。また、本体 4 の下部側の外面には、外気を取り入れるための 2 つの開口（吸気口） 13 A, 13 B が形成されている。2 つの開口（吸気口） 13 A, 13 B は、本体 4 の外径が最も大きくなっている上下方向中央部よりも下部側に、左右の中心線に対して左側と右側とに振り分けられて形成されている（図 4 参照）。ここでは、2 つの開口（吸気口） 13 A, 13 B が左右対称となる位置に形成されているが、他の位置に形成されていてもよい。また、それら開口 13 A, 13 B と空間部 13 K の下端部とを連通接続する 2 つの空気案内通路 13 a, 13 b が本体 13 内に形成されている。2 つの空気案内通路 13 a, 13 b は、内側ほど上方に位置する傾斜姿勢に形成されている。また、本体 13 における空間部 13 K の下方に、香成分 S を収容可能な収容部 11 と、収容部 11 に収容された香成分 S を加熱する加熱部 12 と、加熱部 12 を加熱するための充電型のバッテリー 15 とを備えている。このように、本体 13 の中心部に形成される空間部 13 K の下方に、加熱部 12 と、バッテリー 15 とを上下方向で重複するように配置することによって、本体 13 が横方向（水平方向）に大型化することを抑制することができる。これにより、片手で持ち易くなる。本体 13 を構成する材料としては、プラスチック（耐熱性プラスチックが好ましい）やセラミックの他、金属等が使用可能である。また、本体 13 の底面が載置したときに安定するようにフラット面から構成されている。

[0022] 加熱部 12 は、前述同様に、上方が開放された箱型形状に構成され、例えばセラミックヒータ（カーボンヒータでもよい）からなり、バッテリー 15 に

より加熱される。この加熱により香成分Sが加熱されて香りを放出する。また、香成分Sとしては、前述同様に、固形状、ゲル状、液体状のものが用いられ、公知の香成分を特に制限なく利用できる。例えば、精油、合成香料、動物性香料などを用いることができる。尚、加熱部12は、本体4に備えているスイッチ（図示せず）を操作することによって、加熱状態と非加熱状態とに切り替えられる。加熱部12の上端縁部には、水平軸回りで開閉自在な複数（図4では2つ）の蓋12A、12Aを備えている。これら蓋12A、12Aは、水平姿勢に図示していないスプリングで付勢されており、香成分Sを収容部11に収容する場合には、図4において吸い口部14を本体13から取り外してから、蓋12A、12Aを破線で示す位置まで指で揺動操作することになる。

[0023] 本体13の下端には、前述同様に、バッテリー15に電線16を介して接続された接点17を備えている。また、図4に示す載置台18には、前述同様に、載置した本体13の接点17に接続可能な接点（図示せず）を備えるとともに、該接点（図示せず）に接続されパソコンに接続可能なUSB端子（図示せず）を備えている。従って、USB端子をパソコンに接続しておけば、載置台18に本体13を載置することによって、バッテリー15が自動的に充電されるように構成されている。

[0024] 吸い口部14は、平面視において中央部に上下方向に同一径で貫通する吸い口14Aが形成されている。また、吸い口部14は、本体13の上端に着脱自在に取り付けられ、口で咥えることができる大きさの口部14aと、口部14aの下端に本体13の上端の円形の凸部13Tに係脱自在な円形で上方に凹んだ凹部14Uが形成された係止部14bとを備えている。吸い口部14を構成する材料としては、本体13と同様に、プラスチック（耐熱性プラスチックが好ましい）やセラミックの他、金属等が使用可能である。

[0025] 前記吸い口部14は、口から吸い込み可能な第1吸い口部から構成されている。そして、前記第1吸い口部14に代えて鼻から吸い込み可能な第2吸い口部19を本体13の上端に装着可能に構成されている。図5に、第2吸

い口部 19 を本体 13 の上端に装着した場合の容部の縦断面図を示している。第 2 吸い口部 19 は、鼻を受ける鼻受け部 19 A を備えるとともに、本体 13 の凸部 13 T に係脱自在な円形で上方に凹んだ凹部 19 U が形成された係止部 19 B を備えている。鼻受け部 19 A の周縁には、上方に立ち上がる縦壁部 19 C が延出されている。従って、第 1 吸い口部 14 を本体 13 に装着すると、吸引器具を口から吸い込む形態にすることができ、また、第 2 吸い口部 19 を本体 13 に装着すると、吸引器具を鼻から吸い込む形態にすることができる。

[0026] このように構成された吸引器具 10 を使用する場合には、前述同様に片手で吸引器具 10 を掴むとともに図 3 A、図 3 B の吸引器具 10 では口で第 1 吸い口部 14 を咥える、また図 5 の吸引器具 10 では鼻を鼻受け部 19 A に当接した状態にする。この状態から、図示していないスイッチを押すことによって加熱部 12 を駆動して香成分 S を加熱する。続いて、大きく深い呼吸を行うことによって、2 つの開口 13 A、13 B から空気案内通路 13 a、13 b を通して本体 13 内部に外気を取り入れ、香成分 S の香りを外気とともに空間部 13 K を通して上端の吸い口 14 A から口又は鼻に吸い込む。これにより、健康促進を図りつつ、香り成分 S の香りを取り入れて脳を刺激することによるリラクゼーション効果を得ることができる。また、片手で保持可能なサイズに構成され、かつ、丸みを帯びた形状に構成された本体 13 は、手に馴染み易く片手で容易に保持することができるので、取り扱いが容易である。尚、2 つの開口 13 A、13 B のうちのいずれか一方を指で塞ぐ、又は一方の開口 13 A 又は 13 B の一部を指で塞ぐ、あるいは両方の開口 13 A、13 B の一部を塞ぐことによって、吸い込む外気の量を調整することができる。また、収容部 11 から香成分 S を吸い込むための吸い口 14 A に連通する空間部 13 K に 2 つの空気案内通路 13 a、13 b を合流させる構成にするとともに、2 つの開口 13 A、13 B を第 1 吸い口部 14 よりも下方の本体 13 に（図 4 では第 1 吸い口部 14 から離間する本体 13 の下側に）形成することによって、本体 13 を持つ手の指で 2 つの開口 13 A、13

Bをより一層塞ぎ易くなっている。

[0027] <第3実施形態>

次に、本発明の第3実施形態に係る吸引器具を図6に基づいて説明する。尚、第3実施形態の吸引器具20の内部構造は、図1Aに示したものと略同一である。そのため、吸引器具20の内部構造の図示及び説明を省略する。

[0028] 吸引器具20は、縦長状で、かつ、片手で保持可能な太さのサイズに構成され、しかも丸みを帯びた略瓢箪形状に構成された本体20Aからなり、本体20Aの上部に、吸い口部20Bが一体形成されている。吸い口部20Bの上端には、斜めにカットされた吸い口20Cが形成されている。この吸い口20Cに鼻を当てて吸い込んでもよいし、吸い口20Cを口で咥えて吸い込んでもよい。つまり、図6に示した吸引器具20では、鼻から吸い込む形態と口から吸い込む形態のいずれも可能となる形状になっている。図に示す21は、加熱部を加熱するための押しボタン式のスイッチであり、また、22、23は、外気を本体20A内に取り込むために吸い口部20Bから離間した位置、つまり本体20Aの上部（本体20Aが最大径となる部分よりも径が小さな上側）に形成した2つの開口（吸気口）である。

[0029] このように構成された吸引器具20を使用する場合には、前述同様に片手で吸引器具20を掴むとともに口で吸い口部20Bを咥える、または鼻を吸い口部20Bの上端に当接した状態にする。この状態から、スイッチ21を押すことによって加熱部を駆動して香成分を加熱する。続いて、大きく深い呼吸を行うことによって、2つの開口22、23から本体20Aの内部に外気を取り入れ、香成分の香りを外気とともに上端の吸い口20Cから口又は鼻に吸い込む。これにより、健康促進を図りつつ、香り成分を取り入れて脳を刺激することによるリラクゼーション効果を得ることができる。また、片手で保持可能なサイズに構成され、かつ、丸みを帯びた形状に構成された本体20Aは、手に馴染み易く片手で容易に保持することができるので、取り扱いが容易である。尚、2つの開口22、23のうちのいずれか一方を本体20Aを持った手の指で塞ぐ、又は一方の開口22又は23の一部を本体2

0 Aを持った手の指で塞ぐ、あるいは両方の開口 2 2, 2 3の一部を塞ぐことが容易に行え、吸い込む外気の量を調整し易い。

[0030] 尚、本発明に係る吸引器具は、上記実施形態に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲で種々の変更が可能である。

[0031] 例えば、本体 4 又は 1 3 又は 2 0 A に形成する 2 つの開口 4 B, 4 C 又は 1 3 A, 1 3 B 又は 2 2, 2 3 を 1 つの開口にする、あるいは 3 つ以上の開口にして実施することもできる。

[0032] また、前記第 1 ～第 3 実施形態では、充電式の吸引器具を示したが、乾電池式から構成してもよいし、電源プラグをコンセントに差し込んで吸引器具に電力を供給する構成であってもよい。前記コンセントから電力を供給する構成の場合、電源プラグをコンセントに差し込んでいる間中、加熱部を常時加熱する構成にしてもよい。

[0033] また、前記第 1 ～第 3 実施形態では、吸い口部を口で咥えたり、鼻を当接する構成であったが、口を覆う又は鼻を覆うあるいは口と鼻の両方を覆う大きさに構成されたマスクからなる吸い口部であってもよい。

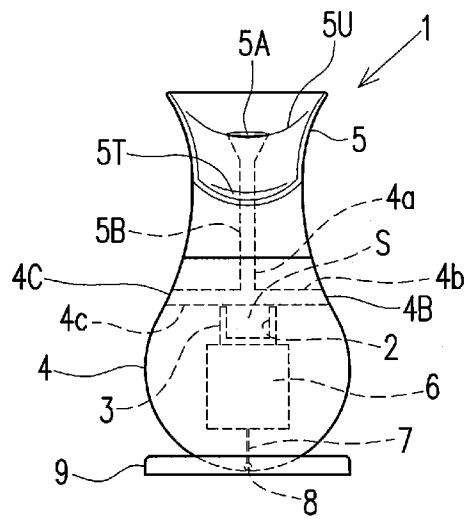
符号の説明

[0034] 1 …吸引器具、2 …収容部、3 …加熱部、4 …本体、4 B, 4 C …開口（吸気口）、4 a, 4 b, 4 c …空気案内通路、5 …吸い口部、5 A …吸い口、5 B …空気案内通路、5 T …段部、5 U …鼻受け用段部、6 …バッテリー、7 …電線、8 …接点、9 …載置台、1 0 …吸引器具、1 1 …収容部、1 2 …加熱部、1 2 A …蓋、1 3 …本体、1 3 A, 1 3 B …開口（吸気口）、1 3 K …空間部、1 3 T …凸部、1 3 a, 1 3 b …空気案内通路、1 4 …吸い口部（第 1 吸い口部）、1 4 A …吸い口、1 4 U …凹部、1 4 a …口部、1 4 b …係止部、1 5 …バッテリー、1 6 …電線、1 7 …接点、1 8 …載置台、1 9 …第 2 吸い口部、1 9 A …鼻受け部、1 9 B …係止部、1 9 C …縦壁部、1 9 U …凹部、2 0 …吸引器具、2 0 A …本体、2 0 B …吸い口部、2 0 C …吸い口、2 1 …スイッチ、2 2 …開口、2 2, 2 3 …開口（吸気口）、R …右手、S …香成分

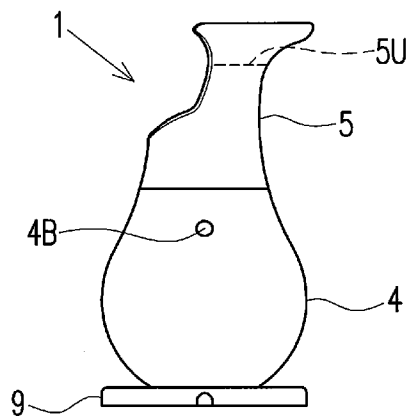
請求の範囲

- [請求項1] 片手で保持可能なサイズに構成され、かつ、丸みを帯びた形状に構成された本体と、該本体内に配置され香成分を収容可能な収容部と、前記本体内に配置され該収容部を加熱する加熱部と、前記香成分を吸うための吸い口部とを備えていることを特徴とする吸引器具。
- [請求項2] 前記本体内に該本体の外部からの空気を取り込むための複数の吸気口が該本体に形成されていることを特徴とする請求項1に記載の吸引器具。
- [請求項3] 前記吸い口部は、少なくとも2種類あって、その一つは、口から吸い込み可能な第1吸い口部であり、他の一つは、鼻から吸い込み可能な第2吸い口部であり、前記第1吸い口部は、前記本体に対して着脱可能に構成され、前記第2吸い口部は、前記本体に対して着脱可能に構成されていることを特徴とする請求項1又は2に記載の吸引器具。

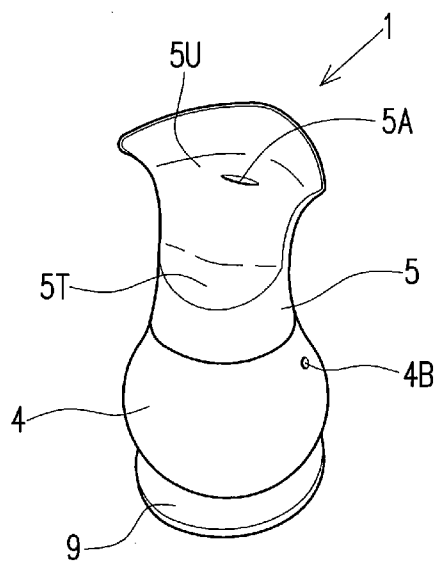
[図1A]



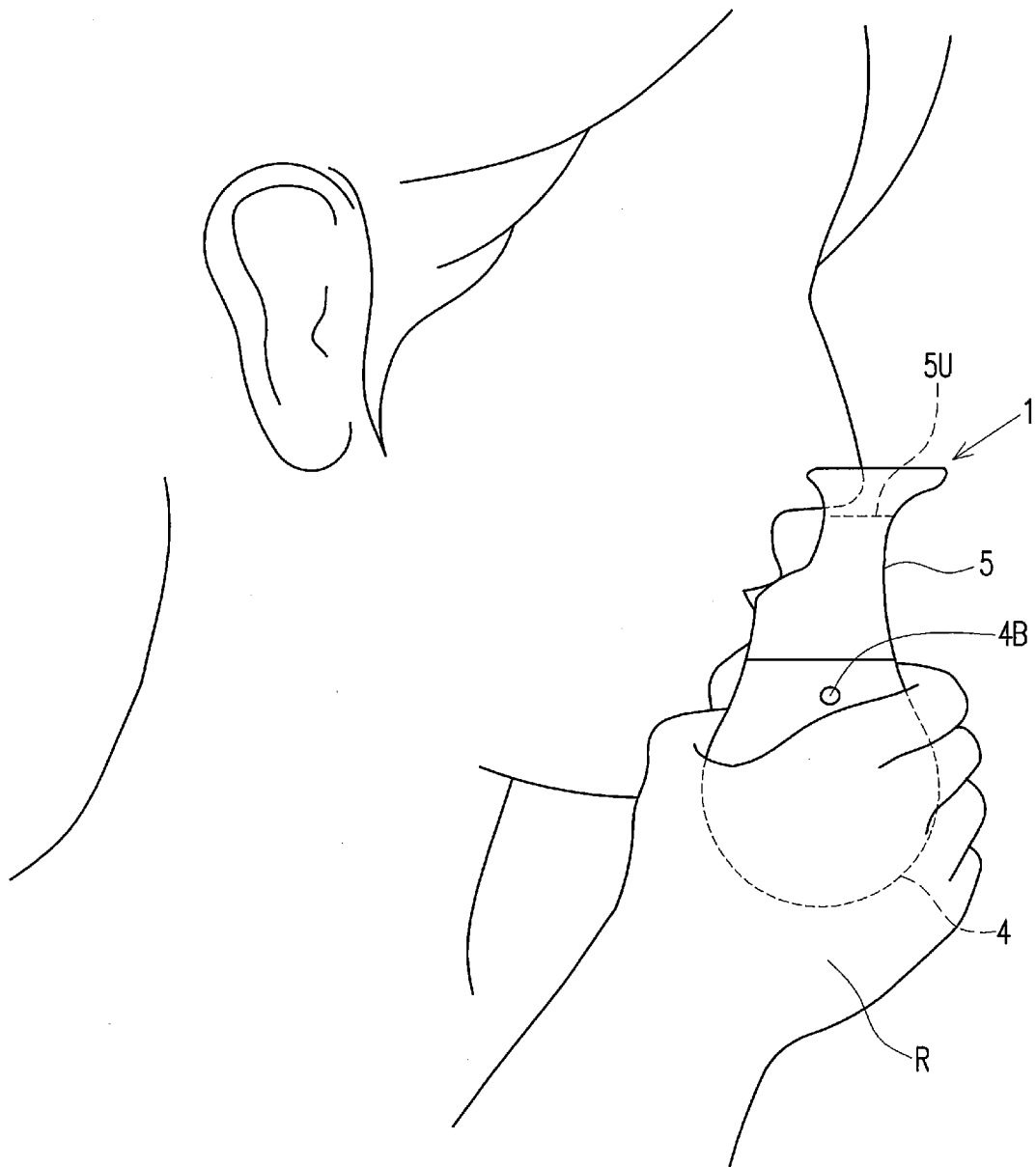
[図1B]



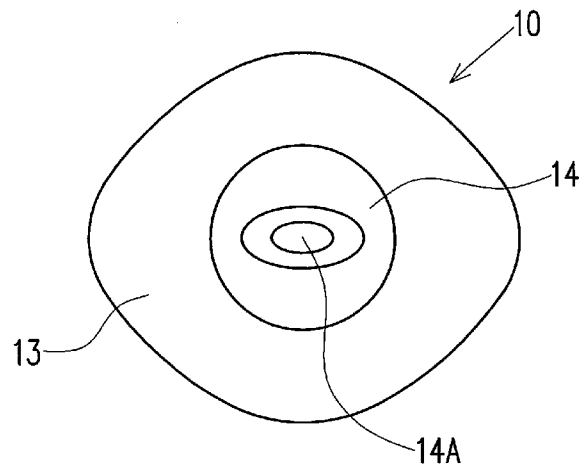
[図1C]



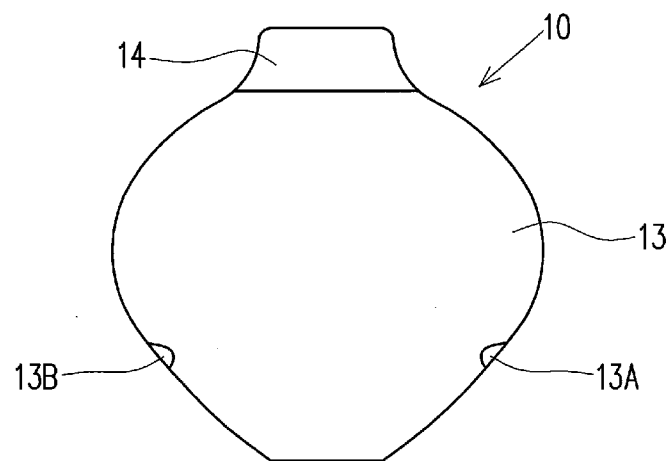
[図2]



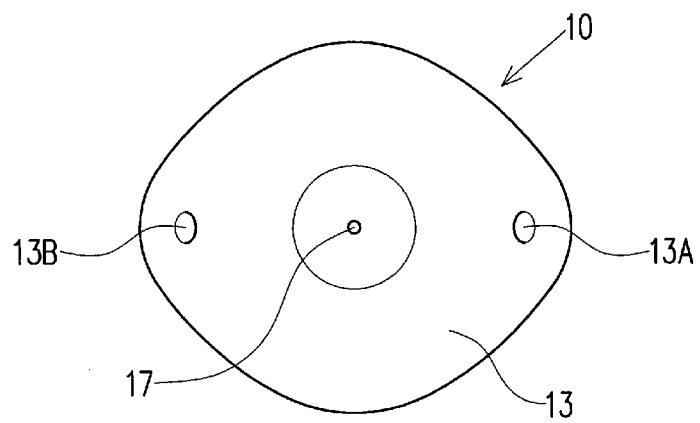
[図3A]



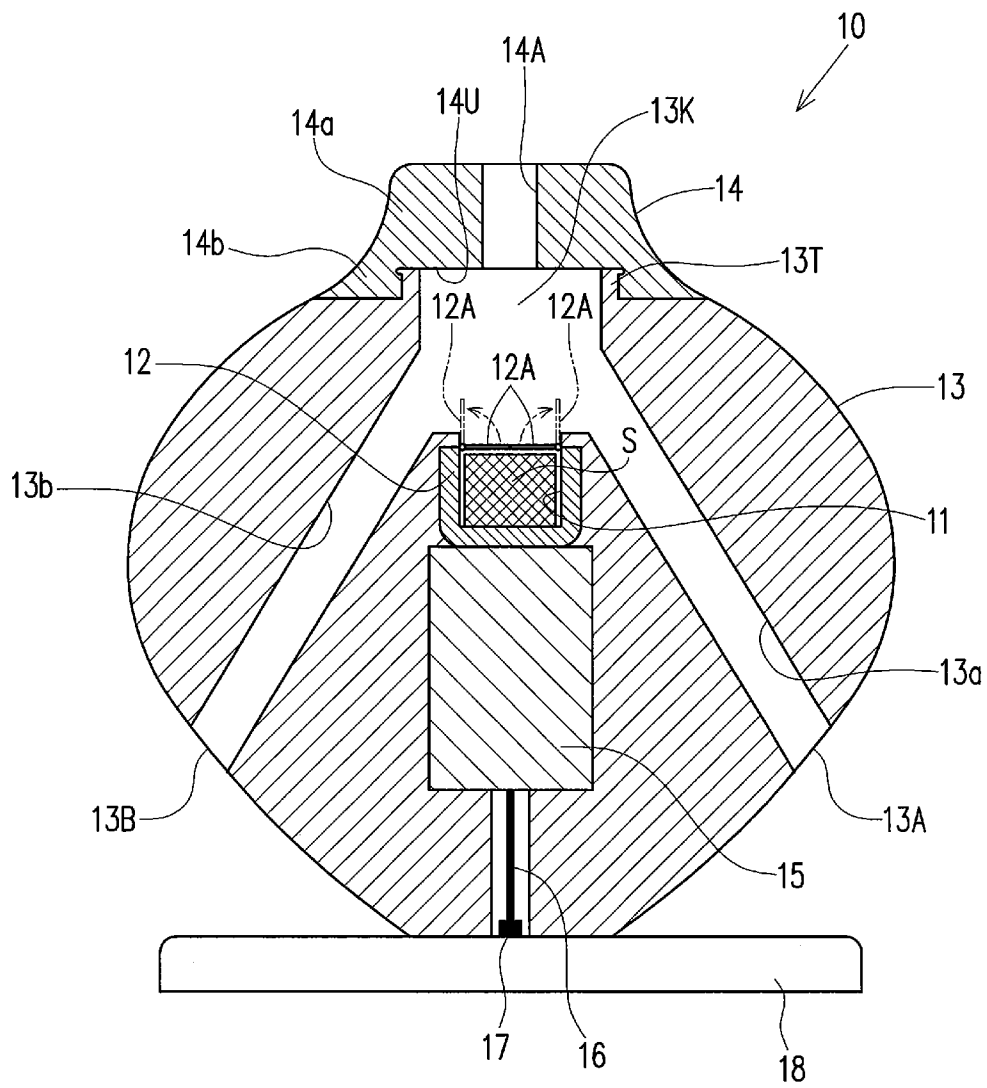
[図3B]



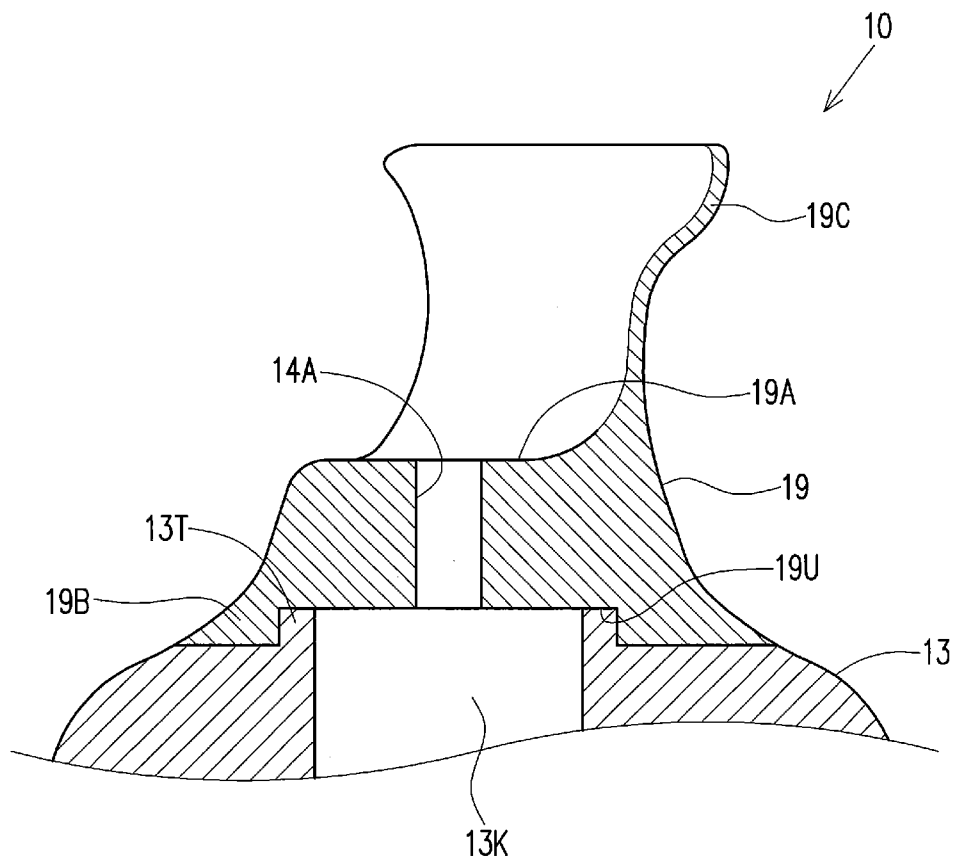
[図3C]



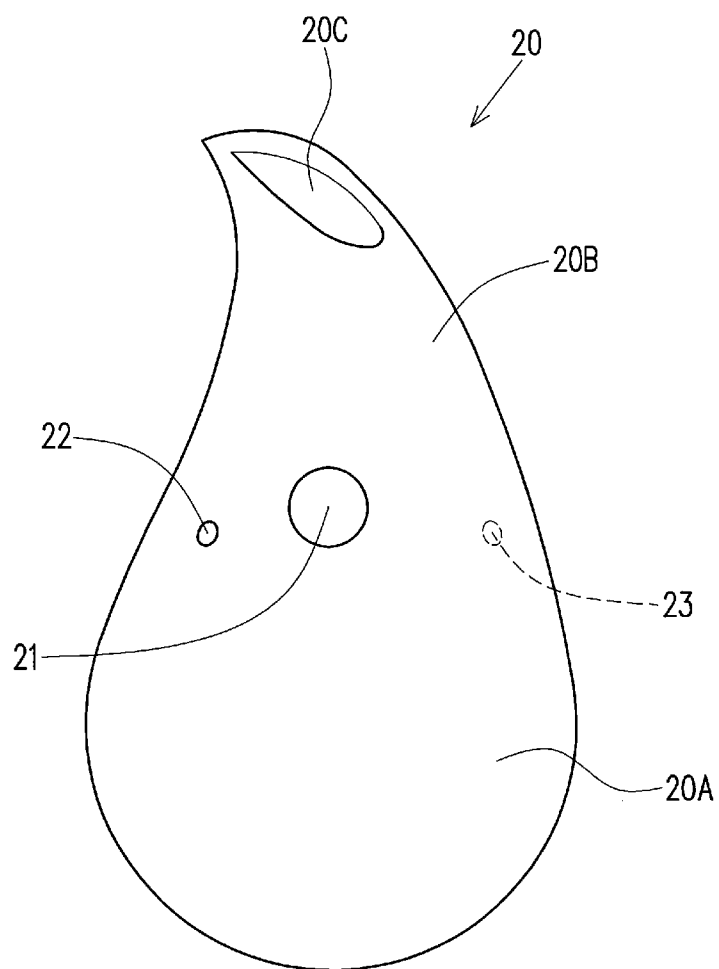
[図4]



[図5]



[図6]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2016/058897

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A61M15/00(2006.01) i, A61M21/02(2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A61M15/00, A61M21/02

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2016
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2016	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2016

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	JP 2008-104859 A (Canon Inc.), 08 May 2008 (08.05.2008), paragraphs [0001], [0014] to [0028]; fig. 1 to 3 & US 2010/0180890 A1 fig. 1 to 3; paragraphs [0001], [0028] to [0041] & WO 2008/050542 A1 & CN 101522243 A	1 2-3
Y	JP 2010-35754 A (Canon Inc.), 18 February 2010 (18.02.2010), paragraph [0012]; fig. 1 & US 2010/0024814 A1 fig. 1; paragraph [0025] & CN 101642595 A	2-3

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
08 June 2016 (08.06.16)

Date of mailing of the international search report
21 June 2016 (21.06.16)

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2016/058897

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 45621/1989 (Laid-open No. 138597/1990) (Japan Pionics Co., Ltd.), 19 November 1990 (19.11.1990), specification, page 5, lines 2 to 15; page 7, lines 13 to 19; fig. 2 (Family: none)	1-2 3
Y	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 176366/1986 (Laid-open No. 174699/1988) (Kawaguchigiken, Inc.), 14 November 1988 (14.11.1988), specification, page 3, lines 10 to 20; fig. 1, 2 (Family: none)	3

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A61M15/00(2006.01)i, A61M21/02(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A61M15/00, A61M21/02

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2016年
日本国実用新案登録公報	1996-2016年
日本国登録実用新案公報	1994-2016年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X Y	JP 2008-104859 A（キヤノン株式会社）2008.05.08, 【0001】, 【0014】－【0028】, 【図1】－【図3】 & US 2010/0180890 A1, FIG. 1-3, [0001], [0028]-[0041] & WO 2008/050542 A1 & CN 101522243 A	1 2-3
Y	JP 2010-35754 A（キヤノン株式会社）2010.02.18, 【0012】, 【図1】 & US 2010/0024814 A1, FIG. 1, [0025] & CN 101642595 A	2-3

C欄の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

08.06.2016

国際調査報告の発送日

21.06.2016

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（ISA/J P）

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

寺川 ゆりか

3E

3219

電話番号 03-3581-1101 内線 3346

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X Y	日本国実用新案登録出願 1-45621 号(日本国実用新案登録出願公開 2-138597 号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (日本パイオニクス株式会社) 1990. 11. 19, 明細書第 5 ページ第 2 ～ 1 5 行、第 7 ページ第 1 3 ～ 1 9 行、第 2 図 (ファミリーなし)	1-2 3
Y	日本国実用新案登録出願 61-176366 号(日本国実用新案登録出願公開 63-174699 号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (株式会社川口技研) 1988. 11. 14, 明細書第 3 ページ第 1 0 ～ 2 0 行、第 1 図、第 2 図 (ファミリーなし)	3